



アーサー・ランサムが一九

二七年に出版した政治的著作『中国のなぞ』の訳書『支那の謎』（榎米吉訳、時事新報通信部 一九一八）にある「小引」には、『現代支那』を理解せんとするにはどうしてもロシア

特に露支関係を究めねばならない。此の意味に於て現大阪毎日新聞北京特派員布施勝治君の『レーニンのロシアと孫文の支那』は権威ある著述である。本書の原著者ランサム君もまた、布施君と同じ時に特派員としてモスクワ（而も同じホテル）にいた人で、ロシアに就いて深い知識を有つてゐる。即ち支那通であると共にロシア通であるのだ。『支那の謎』が尋常一様の支那動亂視察記と異なる所以である」という一項がある。ランサム三十代のことであったら。

だが、ランサムと日本人との出会いはもっと早い。自叙伝に、「日本人の詩人ヨネ・ノグチが、茶色の包装紙をつかつた詩集を下宿でつくつて出したところだった。私は書評を読んでその詩集を買いにブリクストンの彼の下宿をたずね、そこでノグチと、もう一人の日本人で水彩画家のヨシオ・マキノに会つた」とある。

このエピソードは、ヨシオ・マキノ（牧野義雄）が一九一〇年にイギリスで出版した『霧のロンドン』（恒松郁生訳、サイマル出版会、一九九一）にくわしくのべられてゐる。それによると、ロンドンで貧乏しながら画業の完成をめざしていたマキノのところにアメリカからノグチがやつて

きて、ブリクストンで一緒に下宿生活をはじめたと、マキノは、作詩をつづけるノグチに詩集の出版をすすめた。ノグチは「イギリスの出版社はのるますぎるから、自分で出版する」と言つて

ランサムが初めて会つた日本人

神宮輝夫
Teruo Jingu

印刷所をさがし、茶色の紙の十六ページの詩集を作つた。価格は二シリングとした。これを文学関係の著名人や新聞関係者に送ると、やがて「たかさんの人がヨネの本を買いにきた」と、マキノは書いてゐる。ところが、代金を請求できないノグチはほとんど無料で渡してしまつた。その一方で「本を全部あげられるような余裕があるわけじゃないんだ」とマキノにへちまを、私は「もちろんそんなことはできないさ。何だつて君は金を払ってくれといわないんだ？」と聞いた。

「でもマキノ、考えてもみてくれよ、たしかに値段をつけたいのは僕だけだ、こんな本に二シリングも請求できないよ！」
ヨネの本を買いにきた若者と話をしていた時のことだつた。彼はアーサー・ランサムという名で、当時一七が一八だった。私はランサムにヨ

ネはこの本を一冊二シリングで売つたがつてゐるのだといつた。ランサムは快く払おうとした。するとヨネが叫んだ。「違つよ、マキノ、あれは嘘だ！ 嘘なんだよ、そういうなり、ヨネは外へ飛び出していった。しかし、ランサムはぜび払つといつて二シリングをおいていった。私たちはそれでタバコを買い、つぎにラ

の若者の迷いの表われてもあつた。別の世界を求め続けたランサムという人物の性質をも暗示している。
彼は、こうした努力の末に結婚してボヘミアから足を洗うのだが、この結婚ははじめからうまくいかず、そこへ彼が一九二二年に発表した『オスカール・ワイルド』が名譽

ンサムがきたときに、三人で吸つことにした。あとでわかつたことだが、このときランサムは私たちと同じくらい貧乏だった。（『霧のロンドン』六一―）
ランサムが買い求めた「茶色の紙の十六頁二シリングの詩集は『東の海から』。ランサムは一九〇九年に評論誌『フォトナイツ・レビュー』に

毀損罪で訴えられたという不運が重なり、ランサムはロシアへ昔話研究を目的に逃げ出す。それは、ボヘミアやロンドンの文壇から、別の世界への旅立ちだった。そして、この旅は、第一次大戦、ロシア革命という歴史的大変動にぶつかり、海外特派員というさらに新しい世界へ彼を導くことになった。
ロシアへ行ったランサムはロシア語を習得しながら昔話を研究し、一九一六年に彼の傑作の一つと言われる『ピーターおじいさんの昔話』（パピルス刊）を出版したり、物語への執念が生んだような『不老長寿の靈薬』（一九一五）を完成させたり、相変わらず究極の世界に向けた悪戦苦闘を続けた末、ジャーナリズムが



『ピーターおじいさんの昔話』の原書

ら足を洗つてようやく、子どもの文学に着地した。周りの大人たちが「ほんとうにみんなやさしかった」少年期・思春期を送つた律儀でまじめな男が、戦争や革命にもまれ抜いてついに理想の物語の世界にたどりついた、と思われたが、やがてランサムは『川が第一』という作品で、新たな小説の領域を切り開き始める。彼は、ヨネ・ノグチ論で、ノグチの詩集の口絵に使われている歌麿の絵を見て、
「私はその画題ばかりでなくそれが添えられている本そのものまで忘れていた。詩人ウエルレーヌとノグチと、画家歌麿とホイスラーたちの芸術は、それ自体の自由の力によつて、私たちをなじみすぎた世界から解き放ち、子ども以外は、ごくまれに、しかも不定期にしか入れない夢の世界探検へと向かわせてくれる」と言つてゐる。
筆者＝白眉女子大学教授

好評既刊

「アーサー・ランサム著」
神宮輝夫訳
「ロンドンのボヘミアン」
二十世紀初頭のロンドン
を活写するエッセイ
四六判／二七三頁
本体二六〇〇円

「アーサー・ランサム自伝」
子供から大人まで幅広い読者を虜にしたランサムの自伝
四六判／五三六頁
本体三八〇〇円

愛書狂

オークションハウスから送られてくる生原稿の競売カタログを眺めていると、時々ビツクリするようなものが登場する。昨年六月の競売ではフロベールの若書きの旅行記『野を越え、磯を越え』の原稿二十七枚が出ていた。こついても専門家以外はその重要性を理解できないだろうが、これは「作家」フロベールが誕生した記念すべき作品であり、「文体の苦しみ」はここから始まつたといつていい。この生原稿の存在は知られていなかったが、過去に一度（一九五七年）オークションに登場したきりで、一九八〇年にBN（国立図書館）で開かれたフロベール死後一〇〇年回顧展に出品されたことしか記録に残つていない。リュシアン・グロ博士という好事家が個人所有していたため、エディシヨン・クリティックは存在していなかつたのである。コナール版を初めとする全集は、フランス学士院に保存されているもう一人の著者マクシム・デュ・カン『野を越え、磯を越え』は二人が交互に章を書いてゐる（が写したコピーに拠つてゐる。オークション・カタログの注記は誇らしげにこう記している。「フロベールのこの生原稿は作家の文字通り真正な唯一のテクストであることは明らかであり、これまで一度として真剣に研究されたことがない」。気になる落札推奨価格はといつて、百万フランから百五十万フランの間。レート十七円で換算すれば千七百万円から二千五百五十万円。その価値から言へば安い安い。いっそ、私が落としてしまおつかと思つたが、今度こそ破産するのは目に見えてるのでやめた。落札したのが個人だつたら草稿研究は当分の間おあすけである。（鹿）

哲人からのメッセージ350篇

「ニーチェからの贈りもの」ストレスに悩むあなたに
ウルズラ・ミヒエルス・ヴェンツ編



本書は欧米の出版界で編集者・翻訳者として活躍している一女性編んだニーチェ・アンソロジーであり、わが国におけるニーチェ没後百年記念出版の先陣をなすものである。

女性編集したニーチェというのは興味深い。なぜならニーチェは知る人ぞ知る女性差別者・アンチフェミニストであり、仮に女性をめぐるとニーチェの言葉を集めるならば、おそろくたいの女性に憤慨するであろうからだ。もちろん編者はそんなことは百も承知のはずだが、それでは彼女はニーチェのどこに魅力を感じ、読者に伝えたいと思ったのであろうか。

ニーチェは、幼くして父を亡くしながらプロテスタント牧師館の模範的子弟として育ち、ついに

国家と民族を超えて

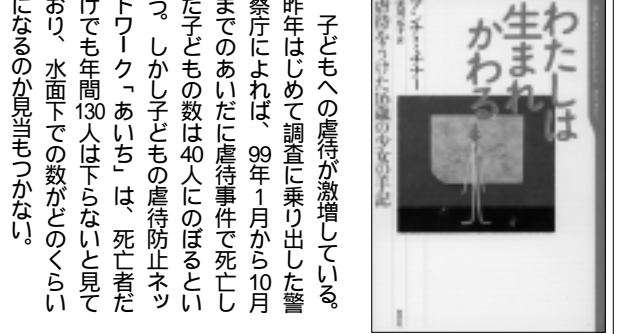
「ニーチェ思想の歪曲」 受容をめぐる100年のドラマ
マンフレート・リーデル 著



その思索自体がポリフォニックで、二重の重層的であるがゆえに、ニーチェは誤解を招きやすい思想家だ。表面的に見るかぎり、二律背反とも思える言辭が決して少なくない。妹エリザベトが遺稿や書簡をもとに恣意的に『力への意志』を主著として刊行したのもそのことと関連づけることができる。

著者リーデルは、戦争と革命の20世紀を舞台にニーチェが「悲劇的で空想らしいドイツ精神史」においていかに歪曲されてきたのかを究明に検証していく。

そのときキーワードとなるのは「通俗化」という言葉だ。20世紀初頭にあつて、国粹主義者はニーチェ思想を通俗的(パナール)に解釈し、民族主義、権力礼賛へと傾いていった。二次大戦後には、旧東独から「後期ブルジョワ哲学の原型」「国家の仇敵」とさえ断罪された(左翼)陣営のニーチェ受容とそれを巡る分析、批判は本書の圧巻である。それに対し著者は、たとえはニーチェの用いた「戦争・闘争」という語は元来キリスト哲学の「アウゲン」(論争)に由来し、純粋な「認識の情熱」としての思想競争に向けた呼びかけであるとし、通俗化を厳しく批判する。



「わたしは生まれかわる」

虐待を受けた16歳の少女の手記
アンナ・ミチナー 著

こつした虐待について、専門家の立場から書かれたノンフィクションは多い。しかし虐待を受けた子ども自身が自分の体験を克明に語ることは非常に少ない。ましてやティーンエイジャーがほんの数年前の自分を見つめてその実態を赤裸々にした手記といつのは本書がはじめてではないだろうか。

アメリカでは多くの書評でとりあげられ、重要な本(図書館ジャーナルとして位置づけられている。手記の著者はティファニー・レイク。16歳から17歳にかけて本書を執筆した。物心ついたときから父母と、そしていわゆる児童心理の「毒舌家」である祖母から身体的精神的に虐待されてきた彼女はついに自傷行為に走り、州立病院の児童精神科病棟に入院させられる

思わずニヤリ 逆境の自己主張

「言いわけ読本」
塩田丸男 著



「通常の人間関係以上の強い結びつきがほしい」と弁解した。キッチンドリンクカーのある主婦は、「ヤケ酒は食卓中満の秘訣ですね」

イギリス兵一人で、ジャップ一タースをやつつけることができた豪語した英国メレー軍総司令官パーシバル中将は、山下泰文中将への無条件降伏を新聞記者に問いつめ

「日本兵は十三人であつてきたから」と言つた。十二人ならなにかとなつたが、十三人来たのでは仕方がない、というユーモアあふれる弁明である。

秘書の女性からセクハラで告訴された某大学教授は、

ブルゴーニュワインは何が

「ブルゴーニュワインがわかる」
マツト・クレイマー 著



「ワインがわかる」で独自のワイン論を世に問ひ、世界中のワイン愛好家をうならせたマツト・クレイマーがワインの王様、ブルゴーニュワインの魅力を知理的に解きあかす。

最近ではカリフォルニア、オーストラリア、チリなどのワインが関心を集めているが、ワインの王国はやはりフランス、なかでもブルゴーニュはブルドとならびフランスワインの双璧。大資本が所有するシャトーの広大なぶどう畑から産み出されるブルドに対して、ブルゴーニュでは栽培家兼醸造家たちが、猫の額のように細分化された畑から、それぞれ異なる信条と技量によつて、十人十色のワインをつくりだす。それらはまさに「作品」と呼ぶにふさわしい。

またブルドのワインは初心者でもアプローチが比較的容易であるのにくらべ、ブルゴーニュは特級のワインであつても品質にはらつきがあり、高価なワインといえども美味を保証してくれるわけではない。したがって、愛好家はより詳細な知識と情報を求めてやまない。このブルゴーニュのぶどう畑は微妙な傾斜に富む斜面にあり、畑の特性(立地・日照・土壌)がワインの品質を決定づけるからである。ゆえにワインに土地の特性と醸造家の技量の結晶を見い出そうとするクレイマーのワイン観は、まさしくブルゴーニュを語るに当るべきものと言える。

ぶどう畑と作り手の個性に焦点をあて、ブルゴーニュにさとは何かを解明する。ファン待望の書。ついに邦訳なる。(阿部秀司訳 A5判 三五〇頁 本体三三〇〇円 3月下旬発売)

白水社の本棚

101-0052 東京都千代田区神田小川町3-24 / 振替00190-5-33228 / 電話03-3291-7811 / http://www.hakusuisha.co.jp

ワインがわかる

マツト・クレイマー「塚原正章・阿部秀司ノ訳」

ワイン界の「知的ゲリラ」が論理的アプローチでワインとはなにかを解明する。一読八々と膝を打ち永年の疑問が氷解する、知的刺激に満ちた書。 二六〇〇円

ワイン・テイスタングを楽しく

岡元麻理恵

よりよくワインを味わい、さらに楽しむためにはテイスタングの知識が不可欠。ワイン初学者からソムリエをめざす人までのテイスタング読本。 二〇〇〇円

イタリア味の原点を求めて

至高の食材12
パルトン・アンダーソン「塚原正章・合田泰子ノ訳」

世界に誇る素晴らしい食材の数々。イタリア各地の伝統的な食材作りの名人、達人を訪ね、究極の美味の秘密を解きあかす。最高に楽しく贅沢な食探訪記。 二六〇〇円

わが家で作るイタリア料理

前菜からデザートまで 基本レシピ75
ヘリーン・シーゲル「川勝里美ノ訳」

大好きなイタリア料理、でも自分で作るのにはちょっとという人に待望の本が登場。目からウロコの基本の極意が豊富なレシピとともに満載。 一六五〇円

香港の食いしん坊

飛山百合子

世界に冠たる食都、香港の食文化がどのように発展してきたかを、香港きつての食通の半生を通して描く。高級料理からB級グルメまでの香港美食ワールド。 一九〇〇円

「ドイツ基本熟語辞典」(新装版)

岩崎英二郎、子安美知子、上田浩二、岡村三郎[編]

久しく品切れになっていましたが、多くの読者の要望に応え、わが国唯一の熟語辞典が新装復刊されました。語学力アップに不可欠な基本熟語2500を収録、いくつものキーワードで検索できるばかりでなく、微妙なニュアンスも例文ではつきりします。中・上級者、独検受験者の必携書。分かる！使える！

B小型 274頁 本体2500円 3月中旬発売



「フランス語を話そう！ フランスを知ろう！」

斎藤広信、ベルナルド・レウルス[著]

フランス語を話したい、そしてフランスがどういう国なのか理解したい、両方の願いに応える、便利でお得なガイドブック。フランス語初級を習いえた人なら無理なく読める、日常生活に欠かせないやさしい会話の手ほどきを導入部として、パリをはじめプロヴァンス、ブルターニュなど、各地方の歴史・風土・文化の特色をやさしく解説。さらにフランス特有の様々な行事・習慣・制度を興味深く紹介。家族・宗教・教育・労働などにまつわるここ数年間の社会の変化も概観。A5判 217頁 本体2300円 別売カセット本体2820円 3月下旬発売

「250語でできる やさしいベトナム会話」

川口健一、大西和彦[著]

ベトナム語を初めて学ぶ人、文法はちょっとかじったけど会話は苦手という人のための、気軽に楽しく学べるやさしい会話入門書です。文字や発音の基礎も丁寧にまとめているので安心。20のシチュエーションでは具体的に基本表現を学びます。巻末の「旅行者のための重要表現と単語」も便利です。

B小型 185頁 本体1800円 別売カセット本体2820円 3月下旬発売

「《エクスプレス》イディッシュ語」

上田和夫[著]

中世にドイツ語を核として形成され、東欧ユダヤ人が千年に渡って保ち続けてきたイディッシュ語の入門書。学問・宗教の言語であるヘブライ語に対し、日常語としてユダヤ人に愛されたイディッシュ語は、ヘブライ語・ポーランド語などの影響を受けて混成言語的な性格を持ち、流浪するユダヤ人を象徴する言葉となった。ヨーロッパ文化へのユダヤ世界の影響を理解する上にも必須。冒頭のヘブライ文字のテキストにはカナルビ(5課まで)とラテン文字を付けて学習の便を図った。

四六判 150頁 本体2800円 別売カセット本体3200円

ふらんす 4月号

入門者必携！CD付きで特別増大号

雑誌『ふらんす』はこれまで毎年3月に別冊『フランス語入門』を刊行していましたが、今年度より本誌4月号を「入門特別増大号」として刊行いたします。添付CDには、入門必須の「フランス語発音のすべて」と「リスニング12か月」の1年分の音源を収録しています。

【入門特集】

フランス語発音のすべて／覚え捨て単語集(仏検5級に必須)／仏検5・4・3級受験読本／フランス語学校ガイド／仏検ほかフランス語試験ガイド

【テレビラジオでお馴染みの一流執筆陣による連載語学記事】

中井珠子『リスニング12か月』／曾我祐典『初歩のフランス語文法』／原田早苗他『やさしい会話 起きてから寝るまで』／奥村 功『単語の覚えかた』／他

【気鋭の執筆陣によるバラエティに富んだ連載読み物】

宮下志朗／岩崎 力／西村牧夫／飛幡祐規／林田遼右／吉田加奈子／他

【フランスから送られてくる最新のニュース】

政治・映画・演劇・雑報エトセトラ

【フランス関係図書の充実した書評欄】

A5判 136頁
12インチ1枚CD付き
定価1000円(税込み)

主な内容

【文庫クセジュ 824】
「トクヴィル」
ジャック・クーネル・ウッター[著]

トクヴィルは、マックス・ヴェーバーとならんで、社会学の規範をつくった人として高く評価されている。彼の名著『アメリカの民主主義』、『アンシャン・レジームとフランス革命』は政治思想史の金字塔として、現代の社会学の世界でのバイブルである。

本書は、この一著を丹念に読み直すことによって、トクヴィルがアメリカで行なった厳密な調査とそれに伴う鋭い分析の手法を明らかにし、社会変革についてのトクヴィルの透徹した省察と予見を現代社会に重ね合わせ、民主的な中央集権国家が陥る独裁の危険性、近代デモクラシーが内にかかえる「画一化」と「自由の窒息」など、民主主義の本質を見抜いた卓越した政治学者の全貌を描き出している。(三保元訳 新書判 一六一頁 本体九五〇円)

【文庫クセジュ 825】
「ヴェネツィア史」
クリスチャン・ベック[著]

イタリア半島北東の付け根、すなわちアドリア海の最奥部に位置する水の都 ヴェネツィアの歴史は、潟と運河と島からなるという地理的特性ながら独特の輝きを放っている。海洋貿易の拠点として地中海の覇権をにぎり、観光の名所としても愛されてきたヴェネツィアも、今日では、地盤沈下や環境汚染といった現実と直面している。

はたして、ヴェネツィアはどこへと向かっているのか？
本書は、その起源から今日までを政治・経済・文化等の諸相にたどったうえで、芸術家たちをも魅惑してやまない都市ヴェネツィアの、人気の秘密に迫っている。観光旅行を味わいながらくしてくれる、ヴェネツィア案内の決定版。巻末には、地図・歴代元首・人口推移表を収録。(仙北谷孝戸訳 新書判 一八〇頁 本体九五〇円 3月下旬発売)

編集者メモ

何かをあきらめるといつかは、不幸なことではない。だって何かを「諦める」というのは、他の選択を「明らかにした」ということだ。と、言っただけで、その「明らかにした」ということには、他の何かを選ばないことと、人生はどのような形であれ、「選択」の連続、そうであるならば前に進めない。パブルが実感としてわかってきた。

営業部 だより

文芸書の売り上げが低迷する書店店頭において、外国文学の立場となるに肩身が狭い。しかしそんなジャンルにおいても、ポール・オースターの人気は別格だ。昨年未刊行された『リヴァイアサン』(新潮社)は主要書店の売上げ上位にランクイン。気の利いたお店になるとソフィ・カル。『本当の話』(平凡社)と一緒に並べて、やはり売れている。小社の『鍵のかかった部屋』(白水社)も、若者中心の書店さんでロング・セラーとなっている。エンター

『サッカー細見』(佐山一郎著、晶文社)という本に面白い話があった。ジュピロ磐田のトレーナーによると、毎日トレーニングしているプロ選手は、四日間休んだだけで普通の人が一年休んだぐらいの体の変化が起こるといっている。同様の話はスポーツに限らない。たしか永井豪だったと記憶しているが、マンガを描くのを何日か休むと力を取り戻すのに半年はかかるそうだし、ピアノリストに至っては毎日練習しない

本の十字路口

と世界レベルの演奏を保てない、と高村薫の小説に出ていた。病気になるのが親が死のうがピアノを生活の中心にしなればならぬ。プロの世界というものはキビシイものである。いや、この私とて出版の口ではないか。数日さばれば著者や業者との丁々発止の交渉が鈍り、それまで読んでいたケラの内容を忘れ、漢字を忘れ、書名を忘れ、すべてを忘れ……ああまた健忘症ネタになってしまった。

語学書

Cは別売カセットテープ、Sはカセット+本のセットです。表示価格は税別です。別途に消費税が加算されます。

白水社の本棚

101-0052 東京都千代田区神田小川町3-24 / 振替00190-5-33228 / 電話03-3291-7811 / http://www.hakusuisha.co.jp

フランス語を12の3 (改訂新版) 内藤陽哉・玉田健二著
基礎・発展・辞書の3部構成で分かり易くフランス語の初歩を手ほどき。授業の補いにも独習にも多様な活用が可能です。(2色刷) 2300円 / C2140円・別売CD2820円

フランス語のABC 数江譲治著
単語、例文、練習問題の1つ1つに心をくばり、わかりにくい事項を丁寧に解説。勉強する人の身になって書かれた入門書。(2色刷) 1600円 / C2820円・S4420円

ビデオで入門フランス語 ボンジュール・パリ 中山真彦著
これは楽しい！ フランスでロケした美しい映像と街角のフランス語。目と耳から自然に身につくビデオ教材。(2色刷) 2300円 / C4280円・別売ビデオ6900円

絵で記憶 楽しく学ぶフランス語 安田悦子著
ふんだんに使った絵の効果で2倍早く、確実にフランス語を習得できます。シャンソン、巻末に旅先での会話も収載。(2色刷) 2300円 / C4960円・S7260円

《C Dエクスプレス》フランス語 筑紫文輝著
ベストセラーシリーズ《エクスプレス》にCDが付いた！ 速く着実に基礎がマスターできます。語学の白水社が贈る、入門書の決定版！(2色刷) 1600円【CD付き】

必携ドイツ文法総まとめ 中島悠爾・平尾浩三・朝倉 巧著
文法説明や変化表を重要度に応じ色分けして初学者の学習の便をはかる一方、かなり高度の文法知識を必要とする人の疑問にも答えられる内容。(2色刷) 1500円

インデックス式ドイツ文法表 (改訂版) 浜崎長寿・野入逸彦・板山真由美著
「？」と思う箇所をインデックスで検索すれば、疑問は瞬時にして氷解という文法書。文法事項は見開き2頁で簡潔に整理し、ポイントも一目瞭然。(2色刷) 1500円

ドイツ語 初歩のすべて 榎本重男著
「わかりやすく」「ていねいに」「読みやすい」入門書。だれもがぶつかる「ドイツ語の難所」も徹底的に打ち砕いてくれます。(2色刷) 2000円 / C2140円・S4140円

増補版 ドイツ文法の入門 菊池雅子著
これからドイツ語を始める人、授業の説明ではよく分からないと悩む人に最適。初心者にも驚くほどよく理解できます。(2色刷) 2300円 / C4280円・S6580円

《C Dエクスプレス》ドイツ語 小塩 節著
ベストセラーシリーズ《エクスプレス》にCDが付いた！ 速く着実に基礎がマスターできます。語学の白水社が贈る、入門書の決定版！(2色刷) 1600円【CD付き】

教科書採用でも好評のフランス語入門書

教科書採用でも好評のドイツ語入門書